

広島市立舟入高等学校

実施日：令和5年1月11日（水）15：45～17：30

講師：外務省 大臣官房G7広島サミット事務局 次長補 田中 法子

形式：対面

内容：講座・座談会

参加人数：講座 640名、座談会 20名

当日の様子



参加者の主な感想

- ・ G7サミットについて興味を持ったことがなかったけど、今日のお話を聞いて、実際に本場で働いている人からの経験も相まってすごくワクワクすることができました。
- ・ 今回のお話の中で、特に印象に残ったのは「海外の人の多くは空襲と原子爆弾の違いがよくわかっていない」ということです。これまで広島で暮らし、広島で教育を受けてきた身としてこの言葉はとても衝撃的でした。今まで当たり前のように「原爆は使用してはいけない」と言われて育ってきたために、同じように考えない人がいるということに思慮が及んでいませんでした。
- ・ 外務省について詳しく知ることができた。サミットという単語の意味など、普段の生活ではなかなか知ることのできないことを知ることができた。
- ・ 今日のお話の中で一番勉強になったことは、自分の中のストーリーを他の地域に住んでいる人に伝えるということです。原爆の被害の大きさや、数字だけでは、海外の人にはあまり伝わらないということに驚きました。
- ・ G7と聞いて、7か国の偉い人たちが集まるものだと思っていたけれど、実際はEUも参加していたり、これまで参加国など形を変えながら開催されてきたのだとわかり、少し興味を持つことができました。
- ・ G7サミットのG7の由来やサミットの意味を知って、より詳しく、深く理解ができたと思いました。G7広島サミットで世界に核兵器廃絶を訴えてほしいなと思いました。
- ・ 海外や広島・長崎以外の県に住んでいる人は私達よりも原爆のことをよく知らなくて、原爆による被害の規模やどんな被害があったかなど、概要的なことを話してもあまり共感を得ることができないという話が印象に残りました。広島で生まれた人間として、原爆の被害などだけではなく、被爆した一人一人の体験談をしっかりと聞いておきたいと思いました。
- ・ 私は英語が好きで、今フランス語も勉強中で、外交官という仕事を目指してはいませんが、言語に関わったり、教えたりする仕事に就きたいので、物事を広い視点で考えてみたいと思いました。
- ・ 外交官はいろんな国へ行って、その国の文化と触れ合うことができ、新しい発見がたくさんありそうな職業だと感じた。今、情報の授業で外交官について調べていたけど、実際の裏話を本人から聞くと、一層おもしろそうな仕事だと思った。
- ・ サミットについてのお話では、今まではぼんやりとした知識しかもっていませんでしたが、歴史や意義をしっかりと学ぶことができました。そして、そのサミットが広島で開かれることに大きな意味があることを理解することができました。
- ・ サミットを広島で開く意義について、私も少し考えてみたが、それを上手く説明できる言葉は見つからなかったの、それが伝えられるようになることをこれからの一つの目標にしてみたいと思う。ただ、今の私でも言えることは被爆地広島でG7サミットを開催することは、間違いなく世界への平和のアピールにつながるだろうということだ。
- ・ 海外で広島の話をするときは、自分のストーリーを話したらいいと聞いたとき、自分だったら何が話せるだろうと考えてみると、今まで小・中・高と平和について学んできたはずなのに、パッとこれだ！というものが思い浮かびませんでした。自分は今まで何を学んできたのだろうかと思いました。私は「広島 原爆」とネットで検索しても出てこないような、被害にあわれた一人一人の話を海外の方に伝えたいと思ったので、今まで講演会に来て下さった方の話を思い出したいと思います。